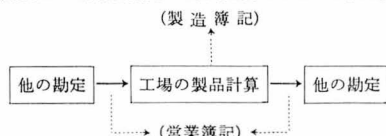


工場勘定の整理は、工場の製品計算を独立した勘定として正確に整理する必要があるため、旧会計制度の下においても、工場簿記または製造簿記の方式を採り入れてきた。



大正12年の工場経理規程においては、最少限度の勘定口座を設け、正確性と確実性の要求を充たしていた。第1表は当時の「工場勘定収支表」であって、表中工作費の借方貸方の差は、間接費を各工事に予定計算によって配賦した場合の差を示すもので、現在の勘定科目では「車両工場差額振替」に相当する。勘定科目を設けただけでは数字が出てこないから内部整理をする必要が起るのである。未成品費も同じく第1表の生産品の借方残では握される。鋳物工事、製材工事についても同様であって、当時この両工事は予定単価による計算をした場合、年度末において実費と一致させなければならなかったから、借方残高はとりもなおさず未成品費を示したものである。

第1表

借 方	科 目	貸 方
修繕代価等収入を計上する	(受 払 科 目)	現金支払額、貯蔵品使用額等経費を計上する
実費額を計上する	(振 替 科 目)	配当済額および工場外供給電灯電力料を計上する
工事費実費額および落成工事差益額を計上する	工 作 費	工事費落成額を計上する
実費額を計上する	生 産 品	
同 上	鋳 物 工 事	振替額を計上する
	製 材 工 事	同 上

備考 受払科目は13に分れているが省略した。

昭和30年度から施行された工場経理規程は、第2表のようになっている。

第2表

借 方 (財 政 科 目)	貸 方 (財 政 科 目)
工場経費	工場収入
(原価整理勘定科目)	(原価整理勘定科目)
費用勘定	費用勘定
収入勘定	収入勘定
第1原価勘定	第1原価勘定
管理部門費勘定	管理部門費勘定
第2原価勘定	第2原価勘定
配賦差額勘定	配賦差額勘定
原価差異勘定	原価差異勘定

これと第1表の旧方式とを比較して変更された点は、管理部門費勘定の設定により配賦差額が2様となった点、標準原価制の採用により原価差異を予定しなければならなくなった点との2点である。このため工場ごとに原価整理勘定元帳を備え、原価整理伝票を作成して毎月記帳整理をするのである(工場経理規程第6章は原価整理勘定科目、仕訳例等詳細を規定している)。この内部勘定整理と、実際原価計算との関連を示すと第3表のようになっている。

一般には、この表の第2原価が工場原価または製造原価であり、第3原価が総原価、第4原価が販売原価となるが、工場においては第3原価、第4原価の計算は行われない。

第3表

材料費	直 接 費	工 場 間 接 費	工場管理部門費	一般管理および販売経費	計 画 利 益
(直接原価)					
(製造原価)					
(総原価)					

(1) 第1原価勘定の残高は、間接費を予定計算によって各工事に配賦した場合に生ずる間接費の実際額と配賦額との差である。

(2) 管理部門費勘定の残高は第1原価勘定と同じく、工場管理部門の間接費を予定によって各工事に配賦した場合の差額である。これは第3表に示すように、実際原価計算(第2原価)の構成上発生することとなり、第1表の場合では振替科目工作費だけに生ずる差額である。

(3) 第2原価勘定の残高は標準原価と実際原価との差額、すなわち原価差異を示すものである。

(4) 配賦差額勘定は第1原価、管理部門費勘定との取引が期末に起り、借方は配賦不足を示し、原価差異勘定は、第2原価勘定との随時の取引で、借方は実際原価が標準原価よりも大きく、損失を結果したことを示すものである。

(5) 費用勘定は工場経費実際額のうち原価外経費を除いた額を貸記し、収入勘定は原価外収入を除いた収入実際額を借記する口座であって、第2表に示すように、いずれも内部整理のために設けたものである。

以上を試算表にまとめれば第4表のようになる。

工場経理によって定例的に作成される統計報告類は19種の多きを数え、本社に提出する回数は年1回、2回、3回、4回、月報とそれぞれちがっているが、年2回がもっとも多く、これらは鉄道統計年報に掲載されている。このほか工場かぎりで管理上必要な資料を独自の見地から作っているものもある。標準原価計算が採り入れられた今後は、事前計算に役立つ資料も必要となってくる。工場経費についていえば、固定費変動費の計算など一例である。

第4表 (数字は仮定のもの)

科 目	借 方	貸 方	備 考
財 政 科 目			
工場経費	99,410		
原価外経費	500		
通常の経費	98,910		費用勘定に貸記
工場収入		101,150	
原価外収入		150	
通常の収入		101,000	収入勘定に借記
差 額	1,740		差益
合 計	101,150	101,150	
原 価 整 理 勘 定 科 目			
費用勘定		98,910	
第1原価勘定	111,470	111,470	配賦差額整理記帳
管理部門費勘定	9,020	9,020	済
第2原価勘定	121,860	121,860	原価差異整理記帳
落成工事費	121,160	121,160	済
未成品費	700	700	
収入勘定	101,000		
配賦差額勘定	320	220	差損 100
第1原価勘定	320		
管理部門費勘定		220	
原価差異勘定	200	2,390	差益 2,190
合 計	343,870	343,870	

→工場原価計算(国鉄車両工場の)。(中嶋 勇)